

第1学年 国語科書写学習指導案

市教研統一研究主題

「自ら学び心豊かに生きる力を身につけた児童生徒の育成」

平成28年度書写部会 研究主題

一人一人が主体的に取り組む書写学習のあり方

【仮説1】課題意識のもたせ方の工夫

児童・生徒一人一人が自分にあった課題をもち、自分の文字について振り返りの方法がつかめれば、文字を書こうとする意識が高まるであろう。

【仮説2】支援の工夫

児童・生徒一人一人が自分の力で解決できるような支援の工夫をすれば、学習意欲が喚起され、主体的に取り組むであろう。

【仮説3】評価方法の工夫

学習のねらいや実態に応じた評価の基準の明確にすれば、児童・生徒は文字感覚が豊かになり、日常の書写学習に生かすことができるだろう。

授業日時：平成28年6月21日（火）

授業者：水流 由美

授業展開：1年3組（32名）

協議会会場：図書室

千葉市立登戸小学校

第1学年3組 国語科書写学習指導案

千葉市立登戸小学校

水流 由美

1. 単元名 2 ひらがなのがくしゅう ②かきじゅん

2. 単元の目標

- ・平仮名の始筆（書き始めるところ）・送筆（「まがり」「おりかえし」「むすび」）・終筆（「とめ」「はね」「はらい」）の書き方を理解して、正しく書くことができる。
- ・文字の外形や書き順に気をつけて、正しく書くことができる。
- ・句読点やかぎなどの書き方を理解して、正しく書くことができる。

3. 単元について

本単元では、文字学習の始めとして、平仮名の書き方を学習する。平仮名一文字一文字の「とめ」「はね」「はらい」「まがり」「おりかえし」「むすび」などの書き方や書き順、拗音・促音などの書き方を理解し、語句や文の中で正しく書けるようになることをねらいとしている。平仮名の学習の基礎として、「とめ」や「はらい」などの書き方に習熟し、一文字一文字を正しく整えて書けるようにするとともに、語句や文の中でも正しく書き表すことができるようにする必要がある。

また、②で扱う「かきじゅん」については、文字と初めて出会うこの小学校一年生で特に丁寧に押さえておきたい。上の学年にいくにつれ、書き順への意識も薄れていってしまうことが予想されるからだ。

一般的に、児童は文字を絵として捉えているため、どんな書き順でも、その文字になっていればよいと思いがちである。しかし、間違った書き順で書いた文字は、字形が整わなかったり、つながりがおかしかったりする。そこで、書き順の指導においては、そもそも、書き順が何のためにあるかということを押さえ、正しい書き順で書くことの大切さを感じられるようにしていきたい。書き順を守ると①よいかたちにかける。②かきやすい。③文字をおぼえやすい。（教科書 p 29）というよさに触れたい。今回取り上げる書き順の大原則は、「上から下へ」と「左から右へ」である。この大原則については全員が理解できるようにしたい。書き順を意識させる方法として、空書きや、大型テレビに映しての書き順の指導、一画目を赤、2画目を青というような視覚に訴える提示の他に、楽しみながら学べる「書き順じゃんけんゲーム」を取り入れたい。

最後に、これまでに学んだ平仮名の学習のまとめとして、「ひらがなのひょう」で、終筆や送筆の書き方、書き始めるところ、書き順などの各項目を振り返り、書く力の定着

を図っていく。特に、書き順については、この単元後の「4かん字の学しゅう②かきじゅん」でも同じ原則について学習することになっている。さらに、2年生でも取り扱うことになっているため、これからの学習へのつながりを見通して、児童が書き順を意識できるようにしていきたい。

4. 研究主題、仮説との関連

研究主題 一人一人が主体的に取り組む書写学習のあり方

〈仮説1〉課題意識のもたせ方の工夫

児童・生徒一人一人が自分に合った課題をもち、自分の文字についてふりかえりの方法がつかめれば、文字を書こうとする意識が高まるだろう。

○仮説1との関連

- ・キャラクター「書きじゅん君」の活用
「書きじゅん君」がわざと間違えた書き順で書くことで、児童が本時で学習する「書き順」について正しい書き順をより意識すると考えられる。
- ・ワークシートの活用
試し書きのときに自分が書いた順番を意識するよう助言してから取り組ませることで、自分の書き順を振り返ることができると考えられる。また、ワークシートには試し書きだけでなく、まとめ書きをする欄を設けることで、自分の学習の成果がわかるようにする。
- ・書き順じゃんけんの取り組み
2人組をつくり、じゃんけんで勝った方から書き始めるという「書き順じゃんけんゲーム」を取り入れることで、遊びながら書き順にふれ、書き順を守ろうとする意識が高まると考えられる。

〈仮説2〉支援の工夫

児童・生徒一人一人が自分の力で解決できるような支援の工夫をすれば、学習意欲が喚起され、主体的に取り組むであろう。

○仮説2との関連

- ・掲示物の工夫
ひらがなの色別表を掲示することで、正しい書き順を自分で見つけられるようにする。また、書き順のきまりごとに文字を分類して掲示することで、視覚的に分かるようにする。

・名前シートの活用

書写ノートやプリントなどに、児童が自分の名前を書く機会が多い。しかし、同じくらいの文字の大きさの手本がないために、字形が整わないことが多い。そこで、名前を鉛筆で書いてラミネートしたシートを一人一人に作り、筆箱に入れていつでも使えるようにしておくことで、自分の力で名前を丁寧に書くことができるようにする。字形の整った名前を書いて学習をスタートさせることで、その後の学習にも意欲的に参加できるようにする。

5. 児童の実態（男子 18 名、女子 14 名、合計 32 名）

本学級の児童は平仮名を上手に書きたいという気持ちが強く、文字を書く学習に大変意欲的である。また、平仮名帳に関しては、一日に二文字のペースで進めており、6月の頭には終えている。一名、週に一度、日本語指導を受けている児童がいる。教師の話はだいたい理解しているが、文字はまだ読めない。興味のあることについては集中して取り組むため、絶えず声をかけ、興味を引くような発問をすることで、意欲をもって学習できるような支援をしていきたい。

実態調査

①. 意欲面の実態「文字を書くことが好きですか。」

好き・・・・・・・・・・22名（理由あり13名 理由なし9名）

あまり好きではない・・・10名（理由あり4名 理由なし6名）

好きの理由・・・書くのが好き・・・5名 手紙が書ける・・・3名 医者になりたい。

あまり好きではない理由・・・難しい。遊ぶ時間がなくなる。いや。「あ」が難しい。

②. 姿勢についての実態

（調査方法）

- ・平仮名のテストの時間において、以下の状態で児童の姿勢を観察。
- ・「正しい姿勢」が取れている状態とは、体の中心（おへそ）が机の中心と一致し、足をふらつかせることなく、背筋が伸びている状態とする。

正しい姿勢が取れている人数

・正しい姿勢について話して、テストを開始した直後・・・・・・・・27名

・平仮名テスト開始後、数分経過した頃・・・・・・・・・・23名

・テスト開始から10分経った頃・・・・・・・・・・19名

・姿勢について再度話した、テスト開始から15分経った頃・・・27名

③. 鉛筆の持ち方についての実態

- ・32名中右利きが31名、左利きが1名
- ・鉛筆の補助具を全員つけて学習をしている。

正しい持ち方ができている人数

- ・補助具をつけているとき・・・・・・・・・・・・・・・・・・24名
できていない児童について 鉛筆が前に倒れるなど8名
- ・補助具をつけていないとき・・・・・・・・・・・・・・・・・・18名
できていない児童について 親指が人差し指よりも出ている 5名、大筆のように持つ 2名、握る位置が上1名、鉛筆が前に倒れる8名

〈考察〉

- ・学級の児童の実態から、全体として、よい姿勢や鉛筆のよい持ち方への意識があることがわかる。しかし、意識したときはできても、継続して行うのはまだ課題がある。また、文字を書くのが好きな児童が多いがなかなか形がとりづらくて書くのが苦手な児童も数名いる。

④. 本時で扱う文字の書き順についての実態

『こ』『と』『り』『い』『け』（本時で扱うもの）と『う』『ら』『え』を書いて、一番目に書く線を赤でなぞってください。」の間違った人数

- 『こ』・・・0名
- 『と』・・・4名 （調査時、未習）
- 『り』・・・0名
- 『い』・・・0名
- 『け』・・・2名 （調査時、未習 ※「は」は既習）
- 『う』・・・0名
- 『ら』・・・3名
- 『え』・・・0名

〈考察〉

- ・『こ』『り』『い』の書き順を全員が正解したのは、一度、平仮名の学習帳で「いち」「にい」と確認していたからだと思われる。また、どれも一画目に「はね」があり、二画目につながるような文字であるため、書き順を間違えにくいと考えられる。
- ・一方、『と』については、文字を見ただけではつながりがわかりにくいと考えられる。書き順を間違えた児童が書いている様子を見てみると、二画目から、一画目を伸ばして書くような書き方をしていた。まだ習っていないということもあり、書き順が自己流になっているとも考えられる。
- ・『け』については、2名が間違えている。このとき、「け」はまだ平仮名帳で学習していないため、「は」で習った書き順を日常化できていれば正解できたのかもしれない。本時でつながりを意識した指導をして、全員が正しい書き順で書けるようにしたい。

6. 指導計画（10時間配当）

主な学習活動	評価	時間
①せんのおわりのかきかた ・「とめ」「はらい」に気をつけて『く』『つ』を書く。	・終筆の書き方を理解することができる。 ・終筆の書き方に気をつけて書くことができる。	1時間
②かきじゅん ・書き順に気をつけて『ことり』を正しく書く。	・正しい書き順について知り、指でなぞって確かめることができる。 ・書き順に気をつけて、正しく書くことができる。	1時間 (本時)
③じをかきはじめるところ ・書き始める位置に気をつけて、『にじ』を練習する。	・文字の始筆の位置について、理解することができる。 ・文字の始筆の位置に気をつけて、正しく書くことができる。	1時間
④せんのとちゅうのかきかた ・「まがり」「おりかえし」「むすび」に気をつけて『と』『そ』『す』を正しく書く。	・送筆の書き方を理解することができる。 ・送筆の書き方に気をつけて、正しく書くことができる。	2時間
⑤にているひらがな ・『ろ』『る』や『さ』『き』などの文字について、どこに違いがあるか見つけ、違うところに気をつけて書く。	・形が似ている平仮名について、違うところを理解することができる。 ・形が似ている平仮名について、違うところに気をつけて書くことができる。	2時間
⑥ますめのなかのかくところ	・拗音・促音、句読点、かぎ、濁音の大き	1時間

<ul style="list-style-type: none"> 『むぎちや』『あくしゅ』『きって』の練習を通して、拗音や促音について気をつけて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> さや書く位置を理解することができる。 まず目の中の書く位置に気をつけて、言葉や文章の中で正しく書くことができる。 	
<p>⑦じのかたち</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字の形が「しかく」「さんかく」「まる」の三通りに分けていることを知り、外形に気をつけて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの文字の、おおよその形を理解することができる。 文字の外形に気をつけて、正しく書くことができる。 	1時間
<p>⑧ひらがなのひょう</p> <ul style="list-style-type: none"> 平仮名の表を見ながら、書き順、送筆、終筆に気をつけて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の書き順と字形に気をつけて、正しく書くことができる。 平仮名の表を見ながら、先生や友達の名前を書く活動を、意欲的に取り組むことができる。 	1時間

7. 本時の指導 (2 / 10)

(1) 目標

- 正しい書き順について知り、指でなぞって確かめることができる。
- 書き順に気をつけて、正しく書くことができる。

(2) 展開 (2 / 10)

過程	学習活動と内容	教師の指導・支援	評価の観点	資料
試書	<p>1. 『こ』『と』『り』を鉛筆で書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平仮名帳でやったとき、こっちから書いたと思う。 『と』はどうだったかな。 <p>2. 「かきじゅん君」の書き方を見て、書き順について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> へんな書き方になって 	<ul style="list-style-type: none"> 「どんな順番で書いたか番号をふっておこう。」と助言することで書き順の意識がもてるようにする。 姿勢、鉛筆の持ち方が良いかどうか声をかけ、意識化する。 「かきじゅん君」がわざと間違えた書き順で書くことで、どこがおかしいか考えられるよう 		<p>ワークシート・教科書の裏表紙の折り返しの姿勢・鉛筆の持ち方の絵</p> <p>キャラクター「かきじゅん君」テレビ</p>

<p>目標把握</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順番がちがうよ。 ・上手に書けてないよ。 ・そんな書き方じゃだめだよ。 ・書きにくそう。 <p>3. 本時の目標を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">かきじゅんのきまりをみつけよう。</div>	<p>にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違った書き順で書いた文字の字形が整わないことを強調することで、書き順の大切さに気付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を理解できたか。(知) 	<p>実物投影機 平仮名の表</p>
<p>基準確認</p>	<p>4. 『こ』の書き順を全体で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こっちから先に書くよ。 ・上から先に書くんだ。 ・はねているところから、次につながるよ。 <p>5. 『と』『り』の書き順を全体で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『り』は左から書き始めると書きやすい。 ・正しい書き順で書くと書きやすいんだな。 ・書き順にはきまりがあるんだな。 	<p>・上から下へというキーワードが児童から出てくるよう、黒板には上や下のカードを貼っておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">きまり① 上から下へ</div> <p>・左から右へというキーワードが児童から出てくるよう、黒板には右や左のカードを貼っておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">きまり② 左から右へ</div> <ul style="list-style-type: none"> ・前で確認した後、教科書を開いて、一人一人が指でなぞれるようにする。 ・正しい書き順で書くとよいかたちにかけることやかきやすいこと、おぼえやすいことを確認する。 		<p>教科書</p>
<p>練習</p>	<p>6. 書き順に気をつけて、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい鉛筆の持ち方、 		<p>書写ノ一</p>

	『ことり』『いけ』『つり』を練習する。	姿勢ができているか声をかける。 ・終わった子から、平仮名表を見て、基準と同じ文字を見つけるよう助言する。		ト
まとめ	7. 『ことり』をまとめ書きする。 8. 正しい書き順で書くことができていたか振り返る。 ・かきじゅんのきまりを見つけることができた。 9. 隣どうしで『ことり』などについて「書き順じゃんけんゲーム」をする。 ・『こ』僕が先だから上から書くよ。	・つながりを意識して書くよう助言する。 ・正しい書き順でということだけに焦点を絞って見るようにする。 ・どちらのきまりをつかったか互いに確認しながら進めるよう助言する。	・基準を理解できたか。(知)	ワークシート
日常化	10. これまでに学習した文字の中で、基準と同じ書き順の文字を見つける。 ・『う』と『え』もきまり①の上から下への文字だ。	・平仮名の表から、①上から下へ②左から右へという書き順のものを探して、指でなぞるよう助言する。		平仮名の表